

関係人口との地域コミュニティ活性化プロジェクト ～OB学生を関係人口の中心とする協働事業～

学生時代、熱心に地域活動を行っていたOB学生が、地域活動を再び始めるきっかけをつくる。OB学生が社会人となって得た知識と経験を持って、学生時代に活動していた地域に改めて関わることで、新たな“気づき”で地域の課題解決につなげる。OB学生をはじめ、多様な関係人口によるワークショップなどを通じて、地域の持続性や課題などの洗い出し、今後の活性化につなげる方策を考え、地域コミュニティの中長期的なビジョンの策定基礎を提案する。

<相生・五名地域における事業内容・イメージ>

学生時代、熱心に地域活動を行っていたOB学生が、再び、地域活動を始めるきっかけをつくる。OB学生を中心に、新たな関係人口や様々な団体等との連携により、相生地区、五名地区で地域の課題解決につなげる取組を行う。

地域と関係人口によるワークショップなどを通じて、新たな“気づき”による課題を洗い出し、地域活性化につなげる方策などを考え、地域コミュニティの中長期的なビジョン策定の基礎を提案する。

ワークショップを通じて出た意見等を基に、本事業の成果発表会及びワールドカフェを開催し、他地域、市民や団体等との意見交換などを通じて、地域コミュニティの課題等の共有を図り、これからの地域づくりのヒントにつなげる場をつくる。



コロナ禍前の活動状況



活動地域

想定している関係人口（「ターゲット層」・「事業内の役割」）

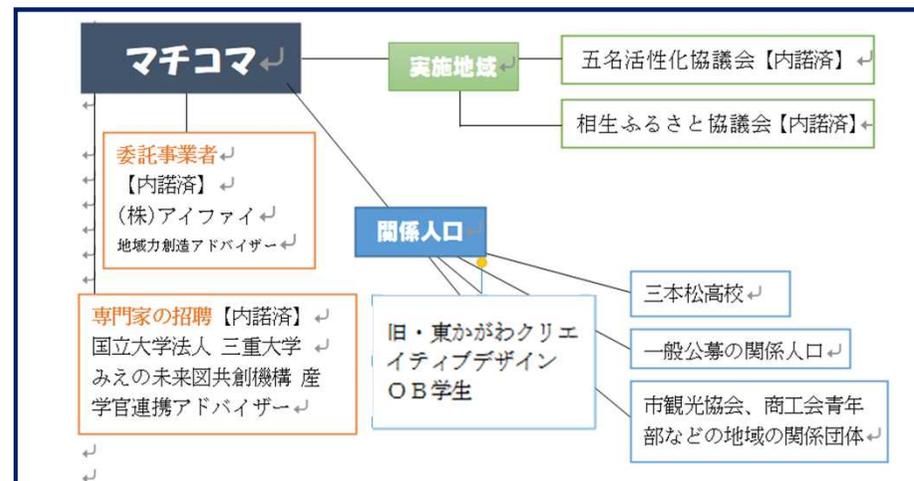
- ・学生時代に域学連携事業等で、熱心に地域活動を行っていたOB学生（事業の中心）
- ・一般公募による関係人口
- ・地元高校生
- ・市観光協会など、地域の関係団体 など

<事業成果 目標（単年度）>

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| ①当該地域で活動するようになった関係人口数 | →経験あり80%以上、初参加30%以上 |
| ②域内外から発信されるSNS投稿の件数 | →SNS発信数 参加者1人当たり1回/月 |
| ③スクラップ&ビルドを検討した事業数 | →2件以上 |
| ④本事業による地域コミュニティメンバーの満足度 | →事務局の主要メンバーの満足度割合50%以上 |
| ⑤関係人口を中心とする中間支援団体創成希望者 | →5人以上 |

※成果検証については、outputのみならずoutcome指標により、客観的な数字やデータ分析により、適切な検証を実施する。

<実施体制図>



<事業スケジュール>



<事業終了後の展望>

本事業をきっかけとして、新たな関係人口の組織が立ち上がり、若者を中心とする関係人口と、地域との連携により、地域課題の解決につなげる。当該地域で活動する人数の増加と、SNS投稿の件数の増加につなげる。過疎による地域の閉塞感から来る暗い気持ちを払拭し、イベント中心の地域活動から、関係人口との連携による身近な地域課題を地道に取り組む体制が構築のきっかけにつなげる。